

令和8年度 第1学年 授業改善プラン

文京区立駕籠町小学校

	児童の実態及び課題	○中心とする単元	授業改善に向けての具体的な手立て	◎ 成 果 ● 課 題
知識・技能	〈国語〉 ・ 促音や長音、拗音を正しく書くことができない児童がいる。 ・ 文を書くときに、助詞の「は」「を」「へ」を正しく使用できない児童がいる。	〈教科〉 ○ せんせい、あのね ○ しらせたいことをかこう ○ たのしかったことをかこう	音読の機会の設定増 ・ 促音を一文字として意識させるために、手拍子を打ちながら読むことや、長音、拗音を使った詩を音読することを積み重ねる。 修正点の具体的な指示 ・ 言葉につくものが助詞であるので、言葉がどこで切れるかを意識して、文を書いたり読み直しをしたりするよう指導する。	
思考力・判断力・表現力等	〈生活〉 ・ 「こんなことができそう」「つぎはこんなことがしたい」等、見通しをもって活動に向かうことができる児童とそうでない児童の差が大きい。	〈生活〉 ○ あきとなかよし ○ ふゆとなかよし	場の工夫 ・ 多種多様な材料を多数用意したり、広い活動場所を確保したりして、児童が試したり、比べたりすることができる場をつくる。 ワークシートの工夫や教師の意図的な声かけ ・ 本時ではこんなことができたので、次時ではこんなことができそう等、本時をもとにして次の活動の内容を考えられるようなワークシートの工夫や教師の声かけを行う。	
学びに向かう力・人間性等	〈全教科〉 ・ めあてを意識して学習を進めることが難しい児童がいる。ねらい（その時間に身に着きたい力）ではなく、自分のやりたいことを中心に学習をすすめてしまいがちである。また、失敗や間違いを避けようとする傾向も強い。	〈算数〉 ○ たしざん ○ ひきざん 〈生活〉 ○ あきとなかよし ○ もうすぐ二年生	発問や助言、板書の工夫 ・ 児童の思いややりたい気持ちを大切にしながら、学習がめあてからぶれないようにするための発問や助言、板書の工夫をする。 教師の肯定的な声かけ ・ 児童の意見や活動について、教師が肯定的に受け止め、前向きな声かけをすることにより、児童が心を解放して、思い思いに活動できるようにする。	